

第1回 西部緑地公園再整備「新産業展示館」整備検討部会 議事録

日時： 令和4年8月25日（木）14時00分～15時30分

場所： 産業展示館3号館内会議室

出席者： 検討委員8名、商工労働部長、経営支援課長

1. 開 会

2. 商工労働部長挨拶

3. 委員紹介・委員長選出

（事務局から会議資料「検討部会委員名簿」に基づいて説明）

4. 説明事項

・石川県産業展示館の現状について

（事務局から会議資料1に基づいて説明）

・全国の主要展示場の状況及び市場概況について

（佐々木委員から会議資料2に基づいて説明）

5. 意見交換

【西村委員長】

はい。ありがとうございます。ということで、プレゼンテーションをさせていただきました。この後はフリーですので、自由にご意見をいただければと思いますけれども、この会はそれほどたくさん回数をやるというわけではなく、数回ということなので、できれば、今日最初でもありますし、全員がリアルに集まりいただいているので、何かご意見をいただければと思います。

また、具体的にここがどこまでのことを決めるのかということが、まだぼんやりとしている感じで、全体の枠組みがなかなか決まらない中で、この展示館の会、新しい展示館がどんな方向で、どんなことを考えて、何に注意しながら建てればいいのか、今のお話なんかのような感じで、新しい情報をいろいろ共有していただいて、その判断が皆さんとして共通してやれるような、そういうベースを作っていくということがまずは重要じゃないかと思いますので、ぜひとも、何かご意見をいただければと思います。ご質問でも構いません。どうぞ、長井委員、お願いいたします。

【長井委員】

改めまして、コンサートプロモーター協会の長井と申しまして、全国75社の正会員で、地域ごとにコンサートを主催している事業者の団体でございます。大はスタジアムから小さなライブハウスまで、2019年ぐらいでいうと全国で3万ぐらいの公演数がありますけれども、それを各地域でやっています。北陸地域でも、いくつかの会員さんがやらせていただいています。

その中で、お役目としては、やっぱりコンサートという言葉がいろいろ資料にも出ていますので、コンサート及び大量な集客イベントという観点からですけど、今西村先生からお話があったようにちょっとこの議論はいくつかの階層に分かれると思うので、その辺をどこからどういうふうに絞っていくのかっていうのは、多分次回以降絞っていただいた上でやった方が我々も話がしやすいです。

ただ今日、先ほどぐるっと（産業展示館を）回らせていただいたりしたときに、やっぱり我々コンサート事業の場合ですと、ここでしかやらないコンサートっていうのは、やっぱり非常にある種少ない。

例えば、ジャニーズさんにせよ、LDHさん、ミスターチルドレンだったり、そういうアーティストが全国をツアーとして全国に巡演しますので、それぞれの施設で個性を立てていただくのは十分良いのですけれども、よく

ありがちなのが、なんでここに柱があるかな、みたいなことだったり、なんでそのまま外周路からストンとトラックがそのまま入ってくれないかな、だったり、いちいち設営のために機材運ぶのに1回荷下ろしして、エレベーターからいけなかな、みたいなことがやっぱり当然ですけど、設営の時間と人手の問題に関わってきますので、それはコストに反映されて、割と使われにくい会場とされてしまうとか、そういうところの物理的な側面はいくつかございます。それはだから、館内の使い勝手とともに、外周路との兼ね合い、それからその表とその周辺の知識ですよ。それは多分、展示会、コンベンションさんでもそうだと思います。搬入口はやっぱり戦争状態、トラックが数珠つなぎになって、そうするとこれもあるのはやっぱり、周辺住民の方から苦情をいただいたりとかってことになるでしょう。産業展示館はやっぱり当然ですけど、広い回り、もっと言うともうやっぱりそういうところの視点は絶対必要になってくるのかなと思うところでございます。

もちろん、あとこの展示館の中でいうと控え室の数であるとか、そういうスペースとか、お客様だまりのスペース、特に有料でチケットを発行するイベントですと、当然、下手すると、中に入るお客様スペースと同じぐらい、外にスペース、待機列が必要になるとか、あるいは物販をどこでやるのか、ということもあるので、割とユーティリティー度っていうのを高めるような方向感でご議論いただいた方がいいのかなと思います。率直に言うと、スケルトンでいいと思います。ただ、大型トラックがスポンと入ってくれる、天井高がそれなりにある、吊りの荷重がそれなりにある、耐荷重は当然ある、それを担保していただいた上で、スケルトンの状態をまず議論のスタートにさせていただいた方がいいのかなという気がします。

それで個人的に全くちょっと別の視点ですけど、石川県及び金沢市として、この施設をある種の防災拠点として考えたときに、時節柄ですけど、例えば、電力をはじめとしたエネルギーの非常時の場合の供給拠点だったり食料だったり、そういう補給庫だったりっていうのはきっとこれからの時代の要請としてこういう施設に出てくるのではないかと思うので、少なくとも何か有事の際に少なくとも3日間確保できる、省電力というか、そういうところは、きっと今後時代の要請として出てくるのではないかなと思います。

ちょっといろいろ思うところは、今日ぐるっと回らせていただいただけでも、コンテンツのこともいろいろ思いますけど、ちょっと一旦控えさせていただきますけど、そういうところでいくつか、もう一度申しますと、そもそも何年後に整備するって話ですか。

【内田商工労働部長】

それはまだ決まっていません。1年ぐらいで構想をまとめて、そのあといろいろ他の施設との調整をしながら、できるだけ速やかにとは思っております。

【長井委員】

その時に完全統合を目指す必要ないと思いますよ。もうよくて8割ぐらいで、あとの2割はバージョンアップできる余地というか、全くがらっと変えていくぐらいの発想を持っていただいた方が、きっと今後50年先っていう、いろんなところでお話しますが、もし50年目指すのだったら、まあ8割どころか、5割ぐらい。あとは50年かけて育てるぐらいの、そういうコンセプトでよろしいのではないかなと思ったりします。すいません。一旦失礼します。

【西村委員長】

非常時にどう使うかっていうことがちょっと質問としてあったと思いますけど、非常時に、ここはそれ使われますか。

【内田商工労働部長】

そもそも防災拠点という議論は、決定したものは何もないのですが、近年、明らかにここ、防災拠点の機能と

いうのはもう求められるのではないかという議論は、県議会でも出ていますので、日常の機能として、ではもちろんないですが、いざというときにこういうスペース、周りの公園のスペースであり展示場のスペースであるというようなものを考えると、明らかに防災機能をそろえていく方向で議論をしていく必要があるのかなというふうには考えています。

【西村委員長】

ありがとうございます。それでは中村委員お願いいたします。

【中村委員】

出展者側の立場としてお話をさせていただきますが、ちょっと話は逸れますが、先ほど東京のビックサイトの話が出ていましたけども、私ども今年の11月から3年ぶりによく、東京都がオリンピックの延期でずっと手放さなかったのでできなかったわけですけど、今年11月に5日間、ようやく開催できるわけでありまして。

この東京のビックサイトっていうのは、私ども世界から見て、日本としては全く小さくて恥ずかしい。ドイツのハノーバーのメッセっていうのはもう何十倍でかい。アメリカもものすごいでかい。韓国ですらでかい。日本は、もう東京都ですから、場所ぎりぎり無理やりやっているというのが現状で、私どもは決してビックサイトで満足しているわけじゃないという思いがあります。

今年、ようやく私どもこの地元でも、MEX 金沢というのを開きました。大変おかげさまで、3年ぶりに開催できました。これから我々としては、昭和38年以来ずっと、場所がここで来てからは、産展に移ってやっていますが、ずっと長年、工作機械を中心として、展示会を開いてきたわけでありまして、何せ日本海側では唯一、最大のショーであるという形で定着していますが、ただ残念なことに古すぎて、良い機械をいっぱい並べても建物が古臭くて、便が悪い、そういう面では、日本海側トップだという誇りがとても持てないような、今の状況です。

これを何としても、お願いしたいということで、県の方にお願いをしてきたわけでありまして、そのときやはり、それだけじゃまだパワーが弱いと思ひまして、ここの、いよいよ解体して新しく作るという時には、福井県では、1万人入るのでコンサートとかで、「石川越え」という言葉が出てくるぐらいに福井に取られておるわけです。やはり石川県としても面白くない、石川っていうのはやっぱり石川県金沢市にもホテルもたくさんあるし、夜もいろんな遊び、時間を持て余すことなく過ごせる良い街だと、ここへ本当はやりたいけれども場所がないから、福井で今やらざるを得ない。そこから「石川越え」という言葉が参りまして、この言葉を何とか「石川県止まり」にしたいなという思いも含めて、今回、1、2、3号館、さらにそれを1万人収容できるような、福井に負けないような、しっかりとしたものができるかという形で、そういうお話が進んで、今日のこういった場になってきたと私は思っておるわけでありまして、もちろん私ども出展者側の要望というものは、いろいろご意見させていただくこともあると思いますけれども、何せいろんな専門の皆様方には、幅広い形でお話をして進めていただければと思います。

ただ、できるだけ私ども早く、新しいところでMEX 金沢を開きたい、そういう思いでやっておりますので、よろしくお願いいたします。

【西村委員長】

ありがとうございます。なるべく早くということでありました。それでは、藤委員お願いいたします。

【藤委員】

改めまして、日本コンベンション協会として、今日お伺いしております藤と申します。我々約240社、団体のコンベンションの業界団体でございまして、会員はいわゆるコンベンションを運用するPCOといいますが、プロフェッショナルコングレスオーガナイザーの略ですが、PCO、それから映像・施工・印刷とか、いわゆる会議

の運営に関わる、民間企業、あるいはコンベンションビューローさんなんかの団体が、参画しております。

この中で我々の業界としても非常に打撃を受けて、政府への提言とか、ガイドラインの作成とかいろいろやってきたわけですが、今回のこの会議体に参加させていただくにあたって、施設の各論の前に私の方からひとつ申し上げたいなというところは、昨今皆さんご承知の通り、SDGs に関する取り組み、議論は随分進んできたと思います。

私自身もいろんな自治体さん、それから官公庁さんなんかもはじめ、国土交通省観光庁なんかもはじめ協議会なんかも出させていただいていますけども、SDGs、そしてサステナビリティに関する取り組みはやってゼロです。やってみずスタートラインというところで、取り組む必要があるのではないかと。なので、例えば、施設の各論以外に、電源の調達はどうするのかとか、雨水の利用処理はどうするのかとか、そういうことも1丁目1番地、一番最初に考えておくべき視点なのかなというふうに考えております。

それから、今のコロナ禍で、MICE、いわゆるミーティング、インセンティブ、コンベンション、エキシビジョン・イベントというのがMICE。略語ですけども、こうした業界においても、改めてコロナ禍でリアル開催が少なくなっている。従って、開催地に人がこないという大きな課題に直面している。その中で、MICEの開催の効果価値、意義は、果たして何だったのかっていうその再議論が必要になってきている、見直されている。MICEのレガシー効果ということで、官公庁からもレポートも出ていますけれども、そこを、この施設を作っていくのを考える際に、どういうその効果を地域にとって生むべきなのかというそういう議論も、改めて必要ではないかというふうに大きなところではちょっと考えるところでございます。

あとは少し各論になりますけれども、施設の動向というところにつきましては、我々コンベンションを母体としておりますのでそれについてお話させていただきますと、あくまでも展示ホール型の施設において、コンベンションを開催する場合には、当然公演会場としての設営が必要になるわけですし、その時に時間的な面、それからコストの面を考えても、やはり展示会場ですけども、ロールバックチェアがきちんと整備してある。階段式で1,000席程度、席は1,000席1,500席ぐらいの席は、ズズズとせり出してくるような設備が入っている。例えば神戸国際会議場のあの一带、神戸国際展示場さんなんかは2号館がそういう設備になっていますし、そういう施設の設計の考え方も必要ではないかというふうに思います。

それからあと、コンベンションにおいては、メインの大きな会場だけではなくて当然平行でセッションが進んでいくわけですし、大規模な会議ですと、多いとやっぱり25会場ぐらい同時に並行してきます。朝から夕方までに25会場同時に進んでいきますので、展示会場の中も分割できるような設計っていうのは最初から考えておく必要がやっぱりあるかというふうに思います。これも、やはりパシフィコ、先ほど日展協さんのお話の中にもありましたけれども、パシフィコ横浜さんなんかで2020年の4月に新しく開業したノースという施設ありますけれども、ここなんかはやっぱり約6,300㎡を8分割で使うようなしつらえになっています。

従って、規模の大きさに応じて、自由に講演会場が設計できるというふうになっておりますので、そういうことも考えておく必要があるのかなというふうに思います。

各論はたくさんありますけれども一旦、その二つの大きな話と、施設の細かな話と二つについて私から申し上げます。

【西村委員長】

はい。ありがとうございます。SDGsで考えるという話と分割可能な、ということでありました。他いかがでしょうか。はい、普赤委員、お願いいたします。

【普赤委員】

商工会議所の普赤でございます。私の方からは2点お話をさせていただければと思います。1点目は建て替えの方向性という中で、1号館から3号館までを統合し、大型化をすると。4号館に近接させ一体的な運用を図ると。

これは考え方として方向性を定められたものだというふうに思います。この辺、大型化する、一つにするということについては、方向性としては妥当だろうなと思います。ただし、現状で、同じものを作るとして統合・集約した時に、今でも道路の渋滞問題、そういうものが起こっているわけで、その辺の何といいますか渋滞対策というか、車の運用というか、そういうことも配置上しっかりと考えてく必要があるのかなというふうに思います。

それから、これは細かなディテールの話になるのかもしれませんが、我々使う方の立場ということで言えば、やはりデジタル化が相当進んでおりますので、設備という面については、5Gは当然ですけど、新しいそういうデジタル技術も最新鋭のなんというか、インフラとして整備をしていくということをやっていたかかないと。今、最新と思っても、すぐ古くなるので、そういう面についてはしっかりと配慮した対応を求めているというふうに思います。以上です。

【西村委員長】

ありがとうございます。渋滞対策とデジタルインフラを非常にしっかりと欲しいということでありました。他いかがでしょうか。はい。それでは、水野委員どうぞ。

【水野委員】

先ほどこの産展の1号館、2号館、3号館、4号館と見せていただきましたけども、何となく1号館も2号かも3号館もサイズが違うだけで、同じストレートな展示会場があって、ちょっと見ると、古いやつは、電気設備も給配設備もないなっていうのがあったり、そんな、時代の差が少しあるのは分かりますけども、基本的にサイズの差しかないっていうのはどういうことだろうなという、あれがそのまま再現されて良いのかなっていうのは、ちょっと感じています。

と申しますのは、私が何回か来ている中で、工芸展を開かれたときに見ましたが、大きな天井のがらんとした中で、伝統工芸をいくら比べても、なんかガラクタ市みたいな。一番の工芸品にふさわしい空間ができてない。

先ほど中村さんがMEX金沢の話でもされていましたが、何となくそれにふさわしい演出なり空間があると思いますけれども、例えば今、金沢で開かれるクラフトフェアがどんな形でやっているかっていうと、ホテルを一つ借りて、その中に50店舗ぐらいのあれを全部部屋ごとに入れて、狭い空間の中を自分で自由にやってくれという、そんな感じでやっているわけですね。

そんな感じの展示会場が日本中にあるかという、そんなものありそうもないので、これは金沢狙い目かなって思ったりしますけども、例えばファッションのものにしても、金沢の得意な食産業の展覧会にしても、何かこう、小さなもの、展示会場みたいなものを並べたものがうまくいくような仕掛けみたいな部分もぜひ取り入れて欲しいと。そうするとストレートなものでない空間ができてくる。そういうのが欲しいなというふうに私は一つ思いました。

それからもう一つは、先ほどのミュージックの方も出ていましたが、私どもの大学の学生たちは、福井のサンドームと、それから長野のエムウェーブにコンサートに行きます。うちの大学にはよくユーミンが来られますけども、ユーミンも金沢でやりたいけど会場がないよねっていつも言っています。そういうために何かアリーナっていうものを提案したいなと思いますけども。野球とか陸上競技場のビッグなものよりも、今なんかアリーナの方がずっと回転が多くて、いろんな目的に使われて、今日のPTAの総会なんかも十分使える空間あるしで、バスケ、バレー、バドミントン、卓球とか、あるいはもうボクシングもプロレスもいいかもしれません。なんかそういうそんなにビッグじゃないけども、今非常に熱気のあるスポーツっていうのはいっぱいあって、そのスポーツ会場がコンサートになったり、いろんな会議で使われたりするっていう、なんかそういう、エレメントがこの今の、西部緑地公園にはないですね。そういうのはどうなるのかって、これ二つ目の聞きたいことです。一応、ちょっと今気がついたところではその二つの点を、何か望みたいなというふうに思っております。

【西村委員長】

ありがとうございます。工芸展みたいなもの、クラフトフェアみたいなものがうまく使われるようなしつらえの部分と、それからアリーナ的な空間、というご意見でした。他いかがでしょうか。尾崎委員お願いいたします。

【尾崎委員】

商工会連合会の専務の尾崎です。大きな話なのでなかなか、今具体的にどうなのか、今からこれからいろいろ検討され、構想から基本設計、実施設計という形に移っていくでしょうけど、今先生方おっしゃったような形は当然いろいろ取り入れていく中で、果たしてその予算上の制約もかなりあると思ひまして、なかなかその100点満点の施設というのは、なかなかできないのかと思っています。

ただ私今ちょっとこの利用者側のこととして一つちょっと言っておきたいのは、石川県、金沢は特に雨の多い地域でありまして、雪も降ります。今さっきトラックでいろいろついたり、荷物をついたりするお話もありましたけども、駐車場からそのいわゆる本館にどのような動線で、雨がつかからないような、小さな屋根のついたその動線をどう作っていくのか、そこはぜひ考えていただきたいなと思っています。

それで障害者の方が、いわゆる車椅子でも雨につかからないような、動線の整備もぜひやっていただきたいなと思っています。

それで全く細かい話ですけども、今はもう前から比べると高速道路のトイレが非常に綺麗なトイレになっていまして、感心するほどですけども、もちろん今から考える建物については当然トイレもしっかりした工夫をしてやっていかれると思いますけども、特に大きな観光施設などで、やっぱり女性のトイレが非常に外に順番がついていることもありますので、ここは、まさに産業展示館というよりも、もう一般の方々が多く利用する施設として今完成されていくと思いますので、そういった細かいところの配慮もまさに、おもてなしじゃありませんけども、そういったところにも工夫を、重ねて予算の制約もありますけども、それとこの西部緑地公園というロケーションの中で、あまり大きな建物もできないと思いますけども、さっきも言いましたように、雨が濡れないような駐車場から、なるべく子供さん親御さんお年の方が濡れないように、その展示場に向かえるようなそういう配慮もぜひお願いしたいと思っています。以上でございます。

【西村委員】

ありがとうございます。一応、一通りご発言いただきましたけど、佐々木委員が途中退席されるということで、もし先ほどのプレゼンテーションは全体的なことだったので、ここの場所で何かコメントがあればと思いますけどいかがでしょうか。

【佐々木委員】

ありがとうございます。いろんなことをこれから決めていくということだろうと思いますので、あまりその先走ったことは申し上げるべきじゃないのかなと思いつつ、ちょっと青臭いことですが、この新産業展示館という名前がついていて、これはおそらくこれを一番初めにおつくりになったのは昭和40何年と聞きましたので、その頃のネーミングじゃないかなと思いますけれども、何が申し上げたいかと言いますと、それぞれのいろんな建物というのがこういうイベント会場にかかわらず、つくった方が、何をするためにつくったのだろうって考えたときに、この名前というのは、まさにその昭和の、その発展していた頃、経済が伸びていた頃の、そういう時代の背景の中でつくられたものであろうとは思いますが、要するに、この建物をつくることによって、この地域の県内の産業がここをベースにして、その全国、あわよくば、海外にまで、マーケティングの場所として使わせよう、そういうものに資する会場をつくろう、またはそのここにいろんな人が集まってくる場所にしようということ、おつくりになったのではないかと思います。

まさにそれは、その展示会をやりなさいということだと思ひますが、これを先ほどのちょっと説明でも申し上げ

げましたが、この路線で、もっと大きなものをつくれればいいですかということ、要するに今、私たちは、これをつくる、施主ではありませんので、石川県さんとしては、これを使って、何をしたいのでしょうかという、そこを少し、ここで洗うものなのか、そうじゃないところであるものなのかちょっとわかりませんが、そういうことを、例えば、コンサートもやりたいよねって思っているのか思っていないのか、そういうことだと思いますけども。例えばコンサートしようと思ったら、展示会場とはいろいろスペック的に相反するところも出てくると思います。そんなことも踏まえて、石川県さんは、新しい会場を作って、稼働率を上げて、言ってみれば、会場貸しビジネスをしようと思っておられるわけでは決してないと思いますから、じゃあそこをどういう目的が一番大事なのか、目的は一つじゃなくてもいいと思います。そこのポートフォリオみたいなものっていうのが、もう少し打ち出していただいた方が、それは仮のものでもいいと思いますけれども、議論がしやすいのかなというふうに感じております。

ちょっと、そもそも論の青い話で申し訳ないですけども、それによって、建物のスペックだとか、もちろん駐車場だとか、交通機関だとかっていうものも含めて、もう少し見えてくるのではないかなというふうに感じています。

【西村委員長】

ありがとうございます。そこのところ少し、議論、説明していただかないと、我々としても何を議論していいかわからなくなるので、いかがでしょう。

【内田商工労働部長】

はい。おっしゃる通りで、絞り込みをもう少しして、この場で議論すべきものは何だという前提が、もう少し絞らないと議論がしにくいなというご指摘だと思います。おっしゃる通りであると思います。ただ正直、綺麗に絞り込んでいるわけではないということも、本音ではございます。

ただ、先ほど、鉄工機電協会の中村会長からちょっと話をさせていただいたのが、地元からの、この建て替えに至った経緯をちょうどお話いただいたわけですが、もともとのそのいわゆる展示場としての機能、ずっと使っている立場として、どうしてももう少しブラッシュアップして欲しい、古くなっていること、狭くなっていることということでの、ご要望があったというのがまず原動力の一つでございますから、まさに展示用の箱として、現在あるものよりも、機能を場合によっては若干大きくするという事も含めて拡充をしたいというのがまず第1のニーズであるのは間違いないです。

それで、そこに今の利用状況を見ますと、本当のいわゆる展示会場、いわゆる見本市的な会場以外の用途も実は相当たくさん使っているという現状があって、そこは全く縮小するつもりはないので、いわゆる見本市みたいなものをやる会場としてのグレードを上げて、大きさも含めていくということ、その際には、従来いろんな多用途に使っていることは、むしろさらに広げられないかなあという思いがあると。その代表格なのかもしれないのが、1万人ぐらいのコンサートの的なものが結構全国でツアーが行われるというようなこと。ジャニーズとかユーミンとかもあると思うんですけども、そういったもので全国数ヶ所のツアーが、石川県になかなか来てくれないというニーズっていうか声が結構ありまして、そういったものを全く確かに展示場としての用途は作り方も全然違うとは思いますが、そういったニーズをせっかくだからこの機会に、この施設をうまく使う作り方を工夫することによって解消したいという声があるのも一つの事実です。

ですから、代表的な話で申しますと、もともとの展示場としての機能をしっかり三つの建物を一つにしてしっかり拡充したいのに加えて、コンサートは欲しいという声が非常に大きい。

ここにあとコンベンション機能なんかも、いろいろ、もう石川県金沢の近辺でコンベンションをもう少し充実できないのかっていう声もあります。この辺りをどこまで付加できるのかというような話が今のところの話でありまして、例えば国際コンベンションをやるのに宿泊施設もくっつけろというような議論まで、場合によっては、

コンベンションに非常に力を入れるとあるのかもしれませんが、今のところそこまで、ここに宿泊もくっつけているというほどの声は、今のところはあまりないのかなとは思っております。

ただ、決して私どもそこは、スタートラインの中に入れてないというわけでもないぐらいの整理がまだできてないところもございますが、この場でもこの場で入れる入れないかわからないまま議論していただくのも申し訳ないですけれども、大きな方向性として挙がっているのは最初に申し上げた2点。それにコンベンション機能というのが、どのくらい足していけるのかなというようなのが今のところ大体出ている議論だという認識です。ちなみに宿泊機能をここにというのが少なくとも、金沢市でのホテルとかの宿泊のキャパシティそのもの自体は非常に地方都市としては大きいので、ホテルというようなものも相当、新幹線の開業以降にも相当できまして、名古屋よりも、部屋数が多いというような報道も聞いたことがあるわけですけれども、そのぐらいホテルの宿泊のキャパ自体は相当ありますので、そんなような前提で今、議論が開始しているという状況ですが、できるだけご議論しやすいように、少しでも私どもの方でも、絞込みはしていければと思っております。今のところ今日はこんなようなところかと。

【佐々木委員】

すいません、答えにくいというか、ここで答えていただこうと思ったわけじゃないですけど、申し訳ありませんでした。

【長井委員】

今、一連皆さんのご意見とかも拝聴して、やっぱりコンサートということで、お声掛けをいただいたと思いますが、やっぱり佐々木委員がおっしゃったような、やっぱり前提論をもしせつかくの機会ですからその辺、もしあったらそういうのを議論する場をこの検討部会がということで、やっぱり僕は個人としてご提案をします。

コンサート利用する場合のいろんな必要な条件、施設としての要件、これは別に議論というよりも、これはもう紙でお出しすることは幾らでもできますので、それぞれのちのちの基本設計なり何なりするときのご参考にしていただければいいので、それはきっと皆さんでお話するよりも、やっぱりこの前提みたいなところ、それで、ちなみにそのコンサートをやっている事業者、実は私も他の事いろいろやっていますが、その点からいっても、今後この日本は明らかに少子高齢化します。経済学も、あるいはそのそういうエンターテインメントに使う時間ももちろん限界があるので、全体の市場はしっかりシュリンクしていきます当然。そういう前提の中で、アリーナコンサートで1万、2万人ぐらいのコンサートのありようっていうのは、これ確実に変わります。むしろ5,000人、6,000人ぐらいのコンサートの方が、例えば、皆さんも連想しやすいかもしれませんが、アリスさんとか、ああいう方々が、それぐらいの方が地方巡演しやすいっていう状況が来るかもしれないですよ。県民会館でしたっけ、兼六園のすぐそばにあって、昔でいう厚生年金会館、ああいう施設とかでは、やっぱり2,000人、3,000人じゃ足りないよねっていうそういうニーズもこれから来るかもしれないです。ということなので、さっき私申し上げた、スケルトンでいて、今後改変する余地を残した方がいいのではないですかっていうのは、ちょっといろんな議論、かいつまんで申し上げましたけど。

というところを、もし参加させていただく私の気持ちとしてはそういうところをいろいろご議論させていただければと思いますし、申し上げますけど、私20何年ぶりに金沢訪れましたが、個人的にはこれ必ずやっぱり好きで、憧れの場所でございます。高校の時も本当に金沢に行きたいがために、学年で仕切っている旅行委員を説き伏せて、金沢に今言ったようにしましたが、僕らからですね大変、食にせよ、ないしは魅力ある場所だと思いますし、僕なんか外から来て利用させていただく側の意見でいうと、やっぱりその外から魅力あるものをお持ちでいらっしゃると思うので、石川、金沢、それをどう活用して、そのいろんな形に活用していこうと、そういう視点でちょっと、よろしいのであれば、そういう立ち位置で検討部会に参加させていただきたいと思っておりますけど。

【西村委員長】

そういう意味でのスペックを提示していただければ、非常に参考になると思います。よろしいですか。何かいいですか。何か他に。一通りご発言いただきました。はい、藤委員。

【藤委員】

はい。今、長井委員のおっしゃったことにちょっと関連して事例の紹介ということをちょっと申し上げますけれども、長井さんがおっしゃったのは、今ある、いわゆる広くいうところのイベントのありようが、極論すると50年後、同じ形ではないという、そういうような趣旨のご発言だったかと思います。

国際会議の場面でも同じことが起きていまして、例えば世界で最も大きい国際会議の団体、ICCAという国際会議協会という団体がありますけれども、ここは年次集会というのも世界各地でやっています。これまではリアルに1,500名程度が1年に集まってこうやっていた。ですけれども、この中でそもそも皆さんご承知の通り渡航がそもそもできないので、この制限を受けてどうしたかというところ、世界各地で、6カ国6都市ぐらいにバラバラに分けて、それでハイブリッドで同じ国際会議を開催するわけですよ。マルチハイブリッド方式といいますけど、そういう形で、国際会議の世界で冠たる協会もそういう形で運用をしているっていうようなことは事実としてあると。それはいろんなサーベイが出ていて、これからの大規模会議のあり方を占うケーススタディーになっている、業界の中ではという話ですけれども、なっていますので、旧来と同じものを、少し、先ほど水野先生もおっしゃいましたけど、同じような形でスライドするのとかいうところは、やはり良い悪いではなくて、議論の必要性があるのではないかと私も思います。

そういう意味で、地域にとってどういうレガシーが残せるのかと私申し上げたのは、やっぱり県の上位政策とかと連動している必要がやっぱりあると思いますし、連動しているからこそ、誘致の時に、資金面だったり、いろんなリソースが上位政策と連動しているので、強力にバックアップできるっていうそういうスキームになっていくのではないかとこのように思っております。

私は同じようなことを観光庁の会合でも申し上げていますが、国の産業政策と同じように歩調を合わせた形で、大規模な国際会議を、韓国とシンガポールと、南アと戦って日本に取ってくる、そういうその分野は何なのか、エネルギーなのかとかですね。そういうことがやっぱり必要ではないかというふうに思いますのでちょっと発言をさせていただきました。

【西村委員長】

他いかがでしょうか。はいどうぞ。

【長井委員】

質問ですけど、PFIのお話が先ほどいろいろ出ていますけど、公設公営から民設民営までの間でPFI的なもの、この整備の初期費用と、あとランニングコストみたいなものは、その方針で決まっているのでしょうか。

【内田商工労働部長】

現時点で決まってはいません。まずは、はい、今出ている話の大前提というのが、最終的に公設民営とか、いろんなことが今後、今どき大きな建物建てる時は、地方公共団体必ずそういう検討をいたしますので、それはやることにはしています。

ただちょうど同時期に、野球場の建て替えということも検討していることも踏まえて、この部会ではそういうことも念頭に置きつつ、とりあえずこのハードとしてどんなものを作るかという方向性をある程度絞るのはここで、それを含めて野球場とかその周りの公園のいろんなものを含めて、民間の知恵をどうやってうまくそこにはめていくかっていうのを議論、どっちかと全体で議論したいなっていうのは別の委員会がやることにはしています

が、当然ここでそういうことも含めてご意見とかいろいろ出てくることはあると思いますので、そういった意見が出たことを、その全体を検討するところにもつないでいくと、こんなことを思っています。それがそもそも事業費についてはやりようによって全く違ってくるとは思いますけれども、少なくとも既設の規模の話が入口論としてあって、1号館、2号館、3号館というものがあってそれを足して、一つの建物を作りますということなので、もともとの三つの建物の合計した規模は最低でも必要だという認識でいますが、例えばその2倍とか3倍とかってことには普通はならないということだと思えます。

ですから三つを合計した規模に、例えば、今どきだからこんな機能があるから、展示面積が、例えば三つ合計したものを概ね仮に一緒だとしても、別のこんなスペースは、今こういう建て方で建てるとなると必要になるだろうというようなことなんか、いろいろなご議論でいただければなと思ったりはしています。例えば、何かの前室みたいなところが今ほとんどないけど相当スペースが要るのではないとか、そんなことなんかいろいろなところでのご経験とかでいただいたら、規模も少し、そこで絞れてくるのではないかなというようなふうを考えています。

【長井委員】

すいません。ちなみに私そのスタジアムアリーナ、スポーツ庁さんが主管していたスタジアムアリーナの改革ガイドブックとかそういうのに長年携わっていたものですから、この流れ、同じことですけど、スタジアムアリーナも今後どうしていくかということで。藤委員からもお話があったその裏のこと、バックグラウンドをご想像いただけたらと思うんですけど、当然利用させていただく側は、使用料があります、会場にないものは自分で持ち込みますと、それはつまりスケルトンで良いと私申しましたけども、スケルトンで良いというのは多分使用料がぐっと安くなって、その代わりに自分たちが負担において持ち込むってことを前提としていますが、そのときだから、それにしても使用料のレベルってどれだけになるだろうってやっぱり最終的にいきますよね。

その時にやっぱり民設民営でいくか、あるいは公設で常に公的なサポートがあった上でいくのかっていうのは大体いろんな事例でわかるわけですけど、それらも含めてこのあり方、ぐるっとやっぱり戻ると、この施設のありようっていうのはどういうふうなんだっけっていうので、やっぱりリンクしてくると思いますし、それがきっとその使用料なりそういうところに反映されてくると思うというところで、どこのポイントで、この後議論させていただければ、ご意見申し上げたらいいかなっていうところの、今質問でございますけども、はい。

【西村委員長】

その意味でいうと、そこを切り離して議論をすると使用料なりは前提がわからないから話ができないということであれば、やっぱりそこは関連しているので、やらないといけないということで、議論をしていただくということにしないと。PFIの話は、別のところであります、ここでやりませんってなると、議論が先に進まないってことですよね。

【長井委員】

本当にもう割り切って、設備の仕様のことだけ申し上げたらいいのかとか、そこですけどね。それは僕ら多分、いわゆる施設をつくる上では、すごいオーバースペックなことになっちゃいますよ。僕らの要求というか、こうあったらいいっていうのをお話しちゃうと。その案配、案配の取り方も僕らもちょっとわからないのかなっていうところ。

【内田商工労働部長】

少し、今日、なかなかここですという線が、正直なところ引きにくいということもございまして、今日いただいた意見も踏まえまして、しっかりまた検討して、今後ご議論いただく土台をもう少し絞った上で、皆様にも

お話をさせていただきたいと思います。

【西村委員長】

はい。ありがとうございます。他いかがでしょうか。よろしいですか。それでは全体として意見も出尽くしたということで、今までのやりとりでもわかるように、まだ何か全体として決まってないことが多いので、ある種、フレームを設定するような議論を、今日やっていただいたということで、この後、少し事務局でも検討していただいてどの辺りに議論をフォーカスしていくのかということに関しては少し、次の実質的な議論ができるように検討を進めていただければというふうに思いますが、よろしいですかね。

はい。ありがとうございました。それでは、全体として意見も今回の意見も出たということで進行をこの辺で事務局にお返ししたいというふうに思います。

6. 閉 会

【西村経営支援課長】

西村委員長、議事進行ありがとうございました。以上をもちまして、第1回、西部緑地公園再整備「新産業展示館」整備検討部会を終了させていただきます。本日いただきましたご意見を十分踏まえまして、委員長も、今もございましたけれども、次回の会合の準備を、進めて参りたいというふうに思っております。引き続き、何卒よろしくお願いしたいというふうに思います。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。